

本州脊梁<sup>せきりょう</sup>山脈の日本海側の雪山にみられるミヤマナラ

低木状に育つミヤマナラ。  
ミヤマナラはミズナラの変種  
とされ、幹が根元で分岐して匍  
匐し、低木状となる。

文と写真◎永光輝義 Nagamitsu Teruyoshi

企画部国際戦略科長

**ミ**ズナラは、日本の冷温帯にある山地林の主要な落葉樹で、林冠に達するほどの高木に育ちます。一方ミヤマナラは、本州脊梁山脈の日本海側の山岳地帯(亜高山帯)に分布し低木状に育ちます。ミヤマナラはミズナラの変種とされ、幹が根元で分岐して匍匐し、葉は小さく、葉の裏面には毛が密生しています。こうした形態から、多雪地域の高山で避けることのできない吹雪や雪崩への耐性を持つと考えられています。

**日** 本列島では、冬に大陸から吹く冷たい季節風が、あたたかい日本海をわたることで雨雲を発生させ、その雨雲が本州脊梁山脈にぶつかって上昇冷却されることで、日本海側に多くの雪を降らせます。そのため日本海側の山岳地帯には、多雪環境に適応したさまざまな植物がみられ、太平洋側に分布する近縁種と区別されています。

**樹** 木では、ヤブツバキに近縁なユキツバキや、ユズリハに近縁なエゾユズリハなどがその例です。これらの常緑樹は寒さに弱いのですが、雪に埋もれることよって冬の厳しい寒さから保護されています。ユキツバキやエゾユズリハは低木状で多雪環境に適応しており、ヤブツバキやユズリハからそれぞれ遺伝的に分化しています。

**青** 森県の八甲田山から長野・富山県の白馬岳にわたる山岳地帯のミヤマナラを調べたところ、ミズナラから遺伝的に分化していることがわかりました。日本海側に特有な多雪環境が適応進化をもたらし、日本列島の植物の多様性を豊かにしてきたのです。



冷温帯の山地帯に分布し  
高木となるミズナラの木



葉の裏面の拡大写真。左がミズナラ、右がミヤマナラ。ミヤマナラの葉の裏には、毛が密生している。